



演劇ユニット 石川組

愛され続ける劇作家「石川裕人^{ゆうじん}」

名取市に在住し、「仙台演劇界にこの人あり」と言われた戯曲家の石川裕人という方をご存知でしょうか。彼は2012年に59歳で逝去されましたが、その生涯で100本以上の作品を書き残した功績は世界的にも稀であり、東北を代表する劇作家です。石川さんが主宰していた劇団 Theatre Group “OCT/PASS” は、彼亡き後も活動を続けていましたが、偉大なる大黒柱不在の影響は大きく継続が困難となり、2016年に幕を下ろしました。

戯曲家石川裕人の作風は、宮沢賢治作品を脚色するシリーズやシリアスな社会劇からスラップスティックコメディ、児童劇まで幅広く、社会が不安定な今の時代にこそ多くの方に触れて欲しい作品です。その作品をこのまま眠らせたくない、戯曲は舞台上げてこそ生きる！という思いで、劇団とともに過ごし彼の芝居の遺伝子を受け継いだ名取市在住のメンバーが主となって「演劇ユニット石川組」を2018年に立ち上げました。



舞台メイクをする石川さん

立ち上げ初演「隣の人々 静かな駅」の際は、彼を慕う多くの人から喜びの声が上がったと言います。現在、石川さんの作品を後世に残すためにホームページを作成、戯曲をデジタルアーカイブ化することで、誰でも上演できるようにすれば、より多くの人々が石川作品に触れる機会を増やせるのではないかと期待し作業を進めています。



「隣の人々 静かな駅」のワンシーン

演劇は楽しい！ 演劇を日常に

「演劇ユニット石川組」代表の宿利さんは、高校で演劇を始め石川さんの舞台に触れ、憧れだった彼の下で役者をして人として育てられたと表現します。出産を機に一度劇団を離れましたが、一番辛い大変な時期に彼の舞台を観て改めて頑張ろうと思える力をもらったと話します。Theatre Group “OCT/PASS” 解散後は、演劇以外で人に喜んでもらえる方法を考えたことも…。しかし「演劇ユニット石川組」を立ち上げ演じたことで、やはり演じることも観ることも心から楽しい！と実感。

そんな折、名取市民は芸術文化活動をしている人が3割しかいないということを知り、名取市と社会課題の解決を目指す事業「名取市協働提案事業担い手育成型（入門コース）」に挑戦し採択されました。演劇体験ワークショップ「お芝居の戯曲を読んでみよう！」と題し、役を演じる楽しさや、みんなでお芝居を創る体験の機会を提供しました。上演の日、受講者は初演とは思えないくらい素晴らしい舞台を創り上げてくれ、想像を超える大成功となりました。今後も石川組として、気軽に参加できる芸術活動の場づくりをしていきたいと思えた嬉しい成果でした。



宿利さんは、団体立ち上げ当初、自分たちが上演することが「石川裕人」を伝え遺す最適の方法だと思っていただけ、ワークショップという体験もとても有効な伝え方なのだと実感できたと言います。「演劇ユニット石川組」はこれからも、石川裕人の魅力を伝え遺しながら、演劇を日常で楽しめるよう活動を展開していきます。

演劇ユニット石川組 代表 宿利左紀子
<https://engekiishikawagumi.wordpress.com/>
✉ : engeki.ishikawagumi@gmail.com